

特性確認シート

氏名:

記入者:

年 月 日

[強み・得意・できること・好きなことを中心に気付いたこと]		[その他気付いたこと]						
本人の行動【1】	✓	現れている行動の例【1】	関連する障害特性【2】	障害特性のリフレーミング	支援のアイデア【3】			
コミュニケーションの障がい		言葉で伝えても、行動にうつせない	A. 理解が難しい □見えないものの理解が難しい □音声言語の理解が苦手 □一度にたくさんはわからない □理解するのに時間がかかる □聴覚が過敏(音・声等)で理解が難しい	→目で見てわかることの理解は得意 →目で見てわかることの理解は得意 →理解しやすい情報量であればわかる →時間をかければ理解が出来る →静かな環境であれば理解することが出来る	・本人が理解できる見える情報(文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物等)で伝える ・伝える量に配慮する ・理解できるまで待つ ・苦手な刺激への配慮			
		オウム返しがある						
		物や図、手本を見せると理解しやすい						
		とりあえず、「はい」「わかった」「いや」などと返事をすることがある						
		曖昧な言葉や、抽象的な言葉の理解が苦手						
		冗談や皮肉など言葉の裏を読めずに、字義通り解釈をする						
		人との会話が苦手						
		短い言葉でないと分からない						
		自分なりの解釈が多く、周囲と理解がずれることがある						
		行動(かんしゃく・パニックなど)で気持ちを伝える						
社会性の障がい		コマースやアニメなど、聞いたことをそのまま伝えても、伝える手段で言葉を使えない	B. 発信が難しい □見えないものの扱いが難しい □音声言語ではうまく伝えられない □誰に/どこに伝えたいかわからない □伝えたいことを忘れやすい	→音声以外の方法であれば伝えることが出来る →音声以外の方法であれば伝えることが出来る →誰に/どこに伝えるか明確であれば伝えられる →思い出せるツールがあれば伝えられる。	・本人が使いやすいツール(文章、単語、絵、写真、具体物等)の提供 ・だれに、どうやって伝えるかわかるように具体的支援 ・忘れたときに思い出す工夫			
		この場所ではこの台詞など、パターン的な言い方がある						
		指さしや相手の手をとって訴える(クレーン)						
		言葉はあるが、不明瞭だったり、自分なりの言い方でしか使えない						
		伝え方が解らず、オウム返しがある						
		文法が使えない(単語・二語文)/使えても助詞(がのを)を間違える						
		やりとりができない/かみあわない				C. やりとりが難しい	→相手の気持ちや背景が明確であれば理解できる →情報が整理されていればわかりやすい →情報が整理されていればわかりやすい	・会話も見えるツールとする ・相手の処理速度に合わせる ・人数などにも配慮する
		やりとりが続かない						
		自分が知っていることを話すのは得意だが、一方的なことがある						
		視線が合うことが少ない						
	人とかかわりが一方的・相手の気持ちに関係なく行動する・一人あそびが多い	D. 相手の気持を想像できない	□見えないものの理解が難しい □情報の多いものは苦手 □どこを見たいかわからない □関係性がわからない	→相手の気持ちが明確であれば理解できる →情報が整理されていればわかりやすい →どこに注目するか明確にするわかりやすい →場面の背景が明確であればわかりやすい	・関係性、感情なども見える形で伝える ・汲み取ってもらう、察してもらうではなく具体的に伝える(誰にどう伝えたらよいかなど)			
	周囲にどのように見られているかわからない、興味が無い							
	相手の表情や気持ちを読むことが苦手							
	気持ちが共有することが難しい							
	その場の状況、雰囲気、暗黙のルールを察することが苦手	E. 状況の理解ができない	□見えないものの理解が難しい □先の見通しをうまくとれない □どこを見たいかわからない □どこで活動したらいいかわからない □視線や雰囲気から読みとるのは苦手 □始めと終わりが理解しにくい □手順が思いつかない	→場面の背景が明確であればわかりやすい →見通しが持てることは安心自立的に取り組むことが出来る →どこに注目するか明確にするわかりやすい →活動する場所が明確であればわかりやすい →相手の気持ちや場面の背景が明確であればわかりやすい →始めと終わりがわかるようになっていれば守ることができる →見てわかるようになっていればできる	・5W1Hを見てわかるように伝える ・着目すべき場所を強調する ・一つの場所を多目的に使わない ・「どうしたら終わる」「次に何をやる」をわかるように工夫する ・すべきことを具体的に伝える ・苦痛となる刺激の遮断を手伝う ・見てわかるように手順を伝える			
	周囲の人と上手に付き合うことができない							
	年齢相応の常識(社会のルール)が身につけていない							
	待つのが苦手/自由時間を上手に使うことができない							
	その場にふさわしい(安全・迷惑に配慮した)行動がとれない							
	個別的な指示は分かるが、全体的な指示は分かりづらい							
想像力の障がい		標識、ロゴ、数字、テレビCM、電車、DVDの繰り返し再生 などの一部分に執着することがある	F. 物の一部に対する強い興味 □興味関心が狭くて狭い □集中しすぎると注意の移動ができない □部分的に強く処理し全体の理解が苦手	→好きなものについてはエネルギーを使うことができる →終わりが明確になっていれば注意を向けることができる →関係性が明確になっていればわかりやすい	・本人の興味関心に合わせた提示/活動に意味をもたせる(こまごま活用) ・終了ときかけの支援 ・まとまりをはっきりさせる			
		自分の興味のないものに関心を示すことができない						
		興味が部分に集中しやすい						
		同時に2つ以上のことに気を配ることが苦手						
		同じ場所に置きたい・同じ角度にしたいなどのこだわりがある				G. 常同・反復的な行動 □決まったパターンでないと不安 □少しの違いで大きな不安 □その都度判断するのが苦手 □特定の行動を何度も繰り返してしまう	→慣れ親しんだこと・もの・やり方であれば安心できる →慣れ親しんだこと・もの・やり方であれば安心できる →判断材料が明確になっていればわかりやすい →決まったパターンを几帳面に行うことができる	・最初から正しい方法で学ぶ配慮 ・変わらないものは習慣化する ・変わるものは「やり方」「教え方」を統一する
		同じ行動を繰り返すことがある(規則的に体を揺らす、手をひらひらさせる、飛び跳ねるなど)						
		手順や日課、道順はいつも同じでないと気が済まない						
		自分のルールを変えられることに抵抗がある				H. 変化への対応困難 □少しの違いで大きな不安 □手がかりが変わるとわからなくなる	→慣れ親しんだこと・もの・やり方であれば安心できる →手がかりが明確であればわかりやすい	・活動を始める前に成功につながる手がかりを提供する →忘れたも確認できるようにする ・変更の伝え方を統一する
		日課・担当者・場所の変更、初めての場所に弱い						
		活動の途中で止められると対応できない、臨機応変が苦手						
感覚の障がい		視覚/眩しがる。目を閉じる。帽子やフードを目深にかぶる。キラキラに没頭する。など	I. 感覚の敏感・鈍麻 □感覚に過敏がある □感覚に鈍感がある □独特な感覚がある □刺激が重なるとう処理が難しくなる	→不要な刺激が遮断できれば対応できる →些細な違いや変化にきがつくことができる →非常に我慢強い →刺激の調整ができれば対応できる	・苦手な刺激を少なくするための配慮 ・強い刺激など危険な刺激、好き過ぎる刺激への配慮 ・避難場所の確保 ・必要な刺激は保障する			
		聴覚/耳を塞ぐ。特定の音を嫌がる、怖がる。特定の音を大音量にしたがる。など						
		触覚/同じ素材の服しか着たがらない。粘土やのりのべたつきが苦手。触られることが苦手。など						
		味覚/著しい偏食。特定の刺激の強い味を好む。同じものばかり食べる。など						
		嗅覚/刺激臭を好む。特定の臭いを極端に嫌うなど						
		ぐるぐる回っても目が回らない、姿勢が悪い、高い場所が好き、ロッキングが多い、など						
		爪切り、散髪、歯磨き、洗濯など日常的な場面で激しく抵抗する						